

「防災塾・だるま」2022年度防災サロン打ち合わせ履歴

日時(定例会後)	A(自助力向上)サロン	B(共助力向上)サロン	C(公助連携力向上)サロン	D(時事防災)サロン
2022/5/26 @さくらリビング 第一研修室	田中栄治(リーダー)、田中晃(記録)、荏本、落合、相原、松島、鈴木、長嶋、 (当日はZOOM環境が悪く、意見交換できず、会議後会員の意見を聞き、まとめたのです。) 1. 地区防災計画のいい点はよく理解できますが、どう進めるかが問題です。 加藤先生の事例紹介も4～5年前から毎回同じ事例で増えてないように思われます。 2. コロナでなかなか直接会っての話し合いができないのは理解していますが、できることから始めることで簡単に取り組みますが、成果が出るまで時間がかかります。 3. 作り上げるまで時間がかかるが、どれだけの人が取り組めるかどうか。 この推進には次の点が必要とする。 →基礎自治体が地区防災計画の推進をする(小田原市は無関心) →推進するコーディネーターを養成する 4. 地方でのテーマが多く、市街地の事例が多くあるとわかりやすい。策定済みのところで調べてみたい。リーダーと骨格の積み上げ、ルールがどうなっているか興味がある。	山田(リーダー)稲垣 萩原 栗原 中根 松原 萩原さん紹介の中根圭介さん、栗田恵子さんが参加。Bサロンは共助がテーマだが災害時に被害者を出さない視点を重視しての研究・活動を目指していることで継続の確認ができた。その意味で5月26日の該議の会の加藤先生の「地区防災計画」についての講義は地域の特性を考慮した、コミュニティの力を駆使した取り組みの可能性を知ることができたので、皆でアイデアを出し合い連携も大事にして、だるまとしての中間支援の方法も探りながら進めていきたいと話し合うことができた。	鷺山(リーダー)、田中喜世美、大西、川原、鈴木 1. 6月防災サロン: 6月16日 15:30～ 青少年育成センター 2. 6月サロン: 協議内容 (1)確認: サロンテーマ、目標、サロン名称等 (2)7月22日「防災まちづくり該議の会」内容: 講師: 河原典子氏(「防災塾・だるま」理事、多摩区普町会) (3)「実践的まちづくりコーディネーター養成講座」への取り組み内容 (4) それぞれの地区から該議の防災マニュアル等を持ち寄り、「地区防災計画」実現への検討 テーマ(仮): 多摩川台風19号浸水被害の実態と今後の防災まちづくりについて (3)「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」への取組内容	樋口(リーダー)、池田、磯野、片山、佐々木、中島、吉開、小林(Zoom参加) * 地区防災計画は「地域にある資源(人材、ノウハウ、環境etc)を活用して地域特性に合った計画にするプロジェクト」。 →みんなの力を引き出すまちづくり(自由な発想で、人的交流の拡大)。希望が持てる講演だった。 * 防災サロンのメンバーは「固定する必要はない(興味のあるところを見にいけるように)」 * 樋口(リーダー)は、「災害時における情報格差(高齢者、しょうがい者、外国人)の克服」に興味がある。皆さんもテーマを探してみたい。 * 防災サロンは、メンバーの多い緑区(みどりーむ)で行いたい →役員会(6/16)の結果を踏まえ、それ以降に開催する(樋口が日程を調整する)。 →小林さん(開成町から)は6/16の横浜市青少年センターに来てくれる。
	A&B&Cサロン: (20220616@横浜市 青少年センター第1 研修室) Dサロン: (20220621@みどりーむ)	山田(リーダー) 中根 樋口 小林 会場参加は、山田さん&樋口の2名のみ。 * 中根さん(環境・防災減災コンサルタント)から、技術士として上下水道について施工管理の専門的な説明を受けた。 * 小林さんは、開成町特有の地形による災害史をまとめているとの事。 ◎Bサロンのテーマ: 東京都の新しい首都直下地震の災害想定について(災害シナリオと被害想定) →上下水道の被害想定について、中根さんから意見を聞いた。 ◎エクステンション講座への取組み(検討) Bサロンの指針(災害時に被害者を出さない)に基づき、 第1部:「共助や避難のあり方」を話し頂いた講師を選定 第2部: Bサロンで担当	鷺山(リーダー)、田中喜世美、河原、鈴木 土田 江上夫妻(別日対談) ◎(鎌倉: 先立つて鷺山と対談) 鎌倉では、それぞれ専門性のある防災士のグループが、学校の防災授業を支援する実践をしている。 学校などの拠点運営のマニュアルが確立しておらず、県の防災計画を持ってきても、行政がなかなか動かない。地域の住民や学校、行政など様々な組織をつなぐ活動も課題が多い。「防災塾・だるま」は学術界、行政とつながる組織なので、「提言」をしていくこともできるのではないかと。 ◎(多摩区) 被災の実態と、地区の課題、今後の方向性について講義をいただいた。 台風19号で被害を受け、行政との関わりについて課題を感じた。通じない、誰にも届かない、地域もなかなか動かない。これで十分という意識もある。そこにもどかしさがある。そこら、他自治体での「地区防災計画」などの取組を学んだり、防災塾・だるままで学んだりしてきた。 ◎(栗原) 行政に自治会や防災課の経験がない。だから、地区での防災連携体制を推進できない。どこから広げるかが課題。災害直後のイメージが曖昧・救出用具などの「物」「人」そして、防災活動に動く「心理」を考えてきた。その結果、近所の安否確認が中心に防災倉庫を配置し、即座に人が物をもって救出にあたること。自治会等の倉庫倉庫には大型の資機材を配置し、応援体制を取るという二段階救出作戦が有効と考えた実践し、提案している。 ◎(神奈川) 多年に渡り、学校の防災拠点運営に携わってきた。神奈川県では、行政がやや積極的。1400世帯。地域づくりをするためのアイデアを出している。月に一度アドバイザーがいて相談している。街歩きなどもできている。行政の支援、声かけがあった。行政が年間計画を提示、補助金も出すという。総務課、見本になる。 ◎(栄区) 学校の防災拠点に協力し、「立入禁止」「男子トイレ」などの拠点表示を提供した。これは避難所運営訓練の実体化に役立った。水害時救出用具など、皆が見たり触れたりする工夫もしている。地区のお祭りの行事や子どもの体験コーナーを充実させることによって、「防災」もまちづくりを実践 ◎(大田区) 自分のマシソンには、「地区防災計画」に相当するものが確立し、HPIにも公開している。小学区で事実上地区防災計画に近いものが機能している。その水害版を昨年から依頼されて作成する方向性でいる。 ◎突破口(個人の意識、自治会等・学校等・行政を隔てているもの?)を作ろう! (当日参加者の一致した感) 突破口は?	樋口(リーダー)、池田、磯野、片山、佐々木、中島、吉開 ◎年間計画の確認(エクステンション講座) * テーマ: マルチハザードを生き抜く家庭と防災まちづくり * 今年度は、各防災サロンのこれまで一年間かけて検討してきたテーマをもとに、講座の内容を構成 ◎Oサロンの考え方 災害を、自然現象に限らず「人」も人も含む幅広い現象(生活を営む上でのリスク)と捉え、いかに対応するか(SDGs: 持続可能な取り組み)を考える。 取り組みテーマは多岐に渡るが、社会に起こるタイムリーな話題を取り上げる。 →「命を守る、生き甲斐、制度(法則)」の基本を外さない →該議の会が行政の発表の場にならなかったか? Originalityが大事 ◎テーマ例 1. 災害想定・対策を点検する * 最悪を想定(バイアスをはき取る) * 考慮すべき項目は? スマホに頼らず、自分で考える 2. NPOセーフティネットの歴史から、樋口 * 予測技術で早期避難は果たせるか? * 災害時、データで命は守れるか? →ちゃんと伝わるには? 何がネック 3. 土地の成り立ちから災害リスクを知る(日本地学会、国土地理院) 4. 火山災害への備え(健康・産業への影響、火山灰の処理) 5. 情報難民を無くするための取組み →一大災害でつながる通信機材(衛星利用)5Gの可能性 6. 感染症について →致死率が低ければ恐れる必要ない、まず国内環境、歴史に学ぶ(どの様に乗り越えてきたか) 7. 人口減少問題 →人口集中が問題を加速、医療で死なせない(生きながらえさせる)ことのは是非 8. 原発問題 →使用済み核燃料の処理、廃炉の進め方(チェルノブイリ)との比較 ◎興味のあるテーマに取り組み(半年度ごとに改訂しない) ◎取組結果は随時報告・発表(情報交換)
2202/7/22 @横浜市青少年育成センター第1研修室	高松(リーダー)、相原、田中晃 * 9月にAサロンの講演会(40分程度)を行う: 田中栄治さんの予定 * 10月の養成講座: 落合先生に内容を確認 * 意見交換会を適宜行いたい(各自の報告に基づいて) * 自助の実践に役立つノウハウや教訓を分かり易く出し合いたい →地盤の話は結構出ている。新築の隣が崩れた事例等をまとめたらどうか。 →開成町の調査はどんなものだったのか。 →関東大震災での自助の事例は? →ボランティアの使い方。行政への対応や本音、議員の使い方など。	Bサロンは8月18日(木)役員会後のサロン別活動で共助をテーマに「災害時犠牲者を出さない命を守る取り組み」として今まで研究してきた自分自身の地域の災害リスクを考えた「マイタイムライン」「OURタイムライン」の中間発表を行う。 地震(稲垣さん)・土砂災害(増田さん)・津波(山田美)・水害(松原さん)できれば会場でプロジェクターを使用したい。 その後皆で話し合いを実施。その他のメンバーも10月に発表。 その成果をまとめて行ければと願っています。 11月の該議の会の講師はこれから決めていくが、できれば外部講師ではなくBサロンメンバー講師を希望。	参加者 鷺山(リーダー)、田中喜世美、河原、鈴木 土田 ◎Cサロンから河原典子氏の講演を行った。 講師を困らでの質疑応答をした。(第187回該議の会記録参照) 次回は8月22日(月)9:30～11:30 Zoomオンリー 公開サロン「学校の防災上の責務を理解する」 ～「横浜市学校防災計画令和4年版」を読み解く～ 講師 鷺山 地域防災の拠点になる学校には、法律や「地域防災計画」で住民に最も身近な「公助」の施設として、多くの責務を負っている。学校職員も、地域住民もそれを理解して、住民、避難者がするべきこと、学校が事前から復旧までできることをタイムラインにしてきた。この4年間で「横浜市学校防災計画」もかなり改訂されているので、そのポイントを解説する。	樋口(リーダー)、池田、磯野、佐々木、田中晃(8/3参加)、中島、片山(8/3参加)、吉開(副リーダー: 8/3参加) Dサロンは、目の前でおきている異常気象による現象(世界で多発する森林火災や、海洋の酸性化、爆発的に拡大を続ける感染症等)から、目を覚めるべきではない。 →8月3日14:30から「みどりーむ」にて、話し合いを続ける。 <8月3日打合せ結果> ◎マルチハザードについて (1)だるまでも取り上げているが、非常に広範囲 * 自然災害、大事故、CBRNE災害(C: 化学(Chemical) B: 生物(Biological) R: 放射性物質(Radiological) N: 核(Nuclear) E: 爆発(Explosive))、有事(安全保障)、犯罪、感染症拡大、食品の安全への不安、住環境の欠陥など多岐に及ぶ。 * 用語の確認: リスク(危険)、ハザード(危険の原因・危険物・障害など) (2)大災害時には、沢山の悪条件(ハザード: 定量化が難しい)を考える必要あり * 人口密集/無縁社会(超個人主義、教育の問題?) * 車の渋滞・パニック * 高層ビルや地下街 * 化学工場の爆発で有毒ガス発生 * コンビナート事故 →同時多発火災 →火災原因(人、火、車の巻き上げ)、消防車や救急車の不足 →小火災のうちに消さなければ手遅れ ◎日本は、ハザードに対応し切れていない * 消火器の配置だけでは不十分(ゴーグル、ガスマスク等のPPEも) * 国内で使用されているインフラ・機器の規格不統一(電力規格、消防ホースの継手、線路(広軌・狭軌)) ◎一般には取り上げられていない視点 * ワクチンや感染症特効薬は「国」とっての戦略物資 * 家具の固定の標準化(家具屋さんと建築業界の提携): 誰でも出来るように * 人口分散による災害リスクの低減 まづは、テーマをいつか出して、その中から選びだす(Ex. 個人情報と防災)